

事例 11 「遊々の森」での森林環境教育の取組

(北海道森林管理局 上川北部森林管理署)



- 北海道名寄市(なよろし)見晴(みはらし)国有林
- 苗木の植樹体験の様子

上川北部森林管理署では、平成16年度に地元名寄市立名寄南小学校と「遊々の森」の協定を締結し、「南小の森」として、国有林野を環境教育の場として活用しています。

同校は、総合的な学習の時間に森林教室を行っており、同署職員が、樹木の観察や植樹体験といった体験型プログラムや森林の働きについて説明する学習型プログラムの作成や実施に協力しています。

令和2年度には、3年生の児童70名を対象に2回の森林教室を実施しました。1回目の9月には「植樹体験」と「クイズ形式での樹木の種類の学習」、2回目の11月には「どんぐりの苗木づくり」と「模型を使用した種子散布の仕組み」、「森林の働きについての学習」を実施しました。

実施後のアンケートでは、9割以上の児童から「楽しかった」「また『南小の森』に来て自然に関する授業を受けたい」といった満足度の高い意見が得られました。また、「どうして葉っぱは色が変わるの?」、「木にはどれくらい種類があるの?」といった質問が多数あり、地域の自然や森林への興味が高まったことがうかがえました。

引き続き、同署では、地域の児童・生徒等の自然や森林に対する理解が更に深まるよう、学校を始めとする地域関係者と連携しながら取り組むこととしています。